

東北大学大学院リーディングプログラム
「修了式」挨拶文 2019.9.26

2019年度9月の修了式にあたり、一言、お祝いを申し上げます。

この度は、東北大学大学院リーディングプログラム、グローバル安全学トップリーダー育成プログラムにおいて3名の皆さんが修了となり、本日こうして送り出す日が訪れたことを大変嬉しく思うとともに、厳しいプログラムをこなしてご自身を高めてきた皆さんを誇らしく思います。

すでに皆さんには昨日、学位記が授与されています。通常の学位記とは違い、和文・英文で特別な文章が添えてあります。この学位記は、大学としても皆さんを祝福し、誇らしく思う気持ちが込められているものとお考えください。

ところで、この度のリーディングプログラムの修了者は全員、グローバル安全学の皆さんということもありますので、昨年度のGSシンポジウムで部門長からのご挨拶として少し触れたことを、ここで改めてお話しさせていただきます。

どのような話題だったかといいますと、それは、グローバル安全学の「安全」という言葉についてでした。

安全という概念が立ち上がってくる時は必ず、その裏返しとして、人々が危険と向き合っているときだと言えます。

実際、英語の safety や security に関する限り、これらの言葉が現在の意味で使われ始めたのは 14 世紀から 15 世紀頃で、その当時、ヨーロッパの英語圏で何が起きていたかといいますと、百年戦争や薔薇戦争、それに黒死病の流行という事態でした。これだけで当時のヨーロッパで約三千万人もの命が失われたとも言われています。

一方、このような特定の単語を離れて、安全の概念そのものがいつごろ現れたのかをたどりますと、洋の東西を問わず紀元前まで文献を遡ることができます。そしてさらには、私たち人類が片仮名のヒトになる以前から、受容できないリスクに対する野生生物としての本能的な反応として、安全が認識されていた可能性も想像できます。

このように、安全という概念が人類の歴史とともにあることを振り返ったとき、グローバル安全学トップリーダーたる皆さんは、今日的な文脈での安全に取り組む専門家の一員として、その長い歴史の最先端にいま加わったこととなります。

その重みと誇りを胸に、世界のあらゆる場所で、それぞれの専門の立場から、安全にかかわる指導的人材としての手腕を発揮されることを心から祈念いたします。この期待の言葉をもって、リーディングプログラム部門長からのお祝いの言葉とさせていただきます。

2019 年 9 月 26 日

副機構長・リーディングプログラム部門長

静谷 啓樹